

ふりがな	かみやゆうすけ		
氏名	神谷勇佑		
学校	愛知県立愛知工業高等学校	学年	2年

現代社会において電気は必要不可欠な物となりました。古くから研究されていた電気ですが、実用化できたのは意外にも最近で、家庭などに根強く浸透し始めたのは19世紀後半のようです。エネルギーという観点から見た電気はその多様性から、様々な用途で使用されます。照明、電気通信、コンピュータ等は代表的で、数多く開発、そして、幅広く普及しました。そんな電気に囲まれて私も育ってきました。幼少期からテレビも携帯電話もあり、電気という存在は私の生活の一部になっていました。それ程までに、電気は当たり前存在になったのです。しかし、その利便性によって引き起こされる弊害を、私たちは忘れてはいけません。もしもの話をしましょう。もしあなたが何らかの災害にあって、電気を使用できない生活に陥ったとしましょう。その時の季節が夏だった場合、電気が無ければエアコンどころか扇風機さえも使用できません。食生活においては冷蔵庫で食材を保存する、という事が出来なくなります。夜になれば、照明はありませんので、暗闇という視界が不明慮な危険な状況で生活しなければいけません。通信端末の充電は出来ないのも、もし電池が無くなれば、助けを呼ぶ事が非常に困難になります。いくつかの例を挙げてみましたが、思いつく限りでも、相当不便である事は間違いなく、命に関わる事例もあると思います。私たちは電気という多才で有用なエネルギーを手に入れました。それは私たちの生活を豊かにより良いものにしてくれますが、それに頼りっきりになってしまうと、使用できなくなったときに大打撃を受けることになってしまいます。地震大国である日本。いつ未曾有の被害をもたらす地震がくるかは誰にも予測できません。備えあれば憂いなし。電気に身を委ねたままではいけないという事実を理解しているからこそ、私たちはこのことわざを有言実行しなければならない。そう私はでんきの月を通して強く思った。